

萩原良昭

奸策や悪意よりも誤解や怠慢が原因や

ただ一人、雄大な四方の風景を、  
雄々とした気分で眺める。

気持ちが一点に注がれ、  
墨でその方向の風景を書き出す。

書いている画紙を、  
僕の手からうばおうとして、  
何度も、突風が吹ぐ。

遠く、京阪電車の走るのが見える。

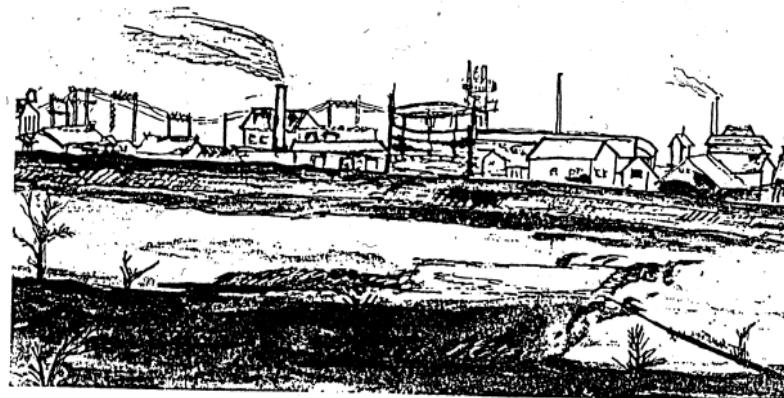
細長い、箱がつながって  
ゆづりと動いている。

大変 静かだ。

ただ、耳にささやく風の音と、  
筆を動かす音だけが  
気にかかるほど  
大きく聞こえる。

寝屋川のおじさん、お父ちゃんのお兄さんが  
おとつい、九日に死に、  
今日は そのお葬式。

夜、十時頃、父、母、幹夫が帰ってきた。  
お父ちゃん、だまり込んでいた。  
寝屋川のおじさん、長い間、病気だった。



187